

## 「評価結果の概要」

### センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】令和2年7月1日現在

圏域人口：64,092人(R元年 64,099人)

高齢者人口：15,940人(R元年 15,791人)

高齢化率：24.87%(R元年 24.64%)

【圏域の特徴】

- ・圏域の人口は、昨年とほとんど変わりはない。高齢者人口が、150人程増加したことに伴い、高齢化率が増加している。2つの大きな集合住宅を抱える北緑丘小校区の高齢化率が増加している(31.43⇒32.41)
- ・北緑丘分室の利便性の良さから、来所での相談が増えている。
- ・圏域全体に坂道がある東豊中、東豊台小校区では、加齢に伴う筋力低下により外出機会が減り、閉じこもることとなっている。家族関係の希薄さから支援の介入が難しいケースが増えている。
- ・4か所で始まった移動販売も外出の自粛で縮小となっている。

### センターの取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

- ・職種を生かし意見交換しながら、全員で取り組む。  
〈本センターと分室との連携〉
- ・意識の統一を図るため、Zoom、内線電話を活用し、申し送り、会議を行っている。
- ・訪問などで、手薄になった時にも、内線電話を活用し、相談対応する
- ・管理者が週に2日は、分室で勤務し、状況の把握、統一に努める。  
〈各担当が行っている業務の進捗状況を知る〉
- ・月1回の定例会議において、担当から進捗状況の報告を受け、今後の方向性など討議する。

【特に力を入れて活動している点】

- ・戸別、地域課題の発掘、把握に努める。  
4校区において、多機関協働での、戸別訪問を継続させた。地域で、見聞きしたことを「つぶやき」として記録し、定例会議で発表、共有した。
- ・自立支援、介護予防の啓発に努めた。  
事業所内で、自立支援ケアマネジメントについての研修を行った。  
「通いの場」を広げるため、啓発ができる会館、集会場、店舗など、全員

が関心を持ち探した。啓発や体力測定時は、担当者以外も補助員として協力した。

**【活動の中での課題やその解決策】**

**<課題>**

独居、家族や親類との関係が希薄な高齢者に早急な支援や緊急入院が必要となった時、情報提供、支援内容、入院手続き、治療方針の決定などだれが行うのか困る事例が増えた。

**<解決策>**

市と相談し、近親者を探し、連絡を取る。独居、高齢者との関わり開始時点から、近親者の情報をとる。

**総評**

**【特徴的な取り組み内容】**

- ① 4校区において、多機関協働で戸別訪問を継続的に実施するなど、潜在需要の掘り起こしと地域ニーズの把握に努めています。独自の「つぶやきシート」を活用し、地域での発見、気づき、変化などを記載し、職員間で共有しています。校区毎の課題やニーズが常に記録されているため、計画にその内容が適宜更新され反映されています。
- ② 集会所、会館、店舗など、新たな通いの場の創設に努めています。
- ③ 本センターと分室で、インターネット環境を活用したミーティングを行い、情報共有を図っています。また、本センターと分室で電話を同時に受けられるようにし、市民からの相談等に速やかに対応できる体制を構築しています。

**【さらなる質の向上の余地がある点】**

戸別訪問等で発見された課題などに対して、校区ごとの地域特性もふまえた円滑な支援に繋げる仕組みの拡充のために、必要な社会資源の発掘と、活用に向けたいっそうの取り組みが望まれます。